

畑作

稲作

白神ねぎ

○長ねぎ栽培について

病害虫が発生しやすい時期となります。圃場を確認しながら適期防除に努めましょう。

【病害】

本格的な梅雨入り前の「べと病」防除を忘れずに!!

リドミルゴールドMZ、フォリオゴールド、レーバスフロアブルなど

※近年はさび病も見られますので要注意。

軟腐病・白絹病の予防について

薬散の仕方

・軟腐病 → オリゼメート粒剤 (通路へ散布後土寄せ)

・白絹病 → モンカット・モンガリット粒剤 など (土寄せ後株元へ)

【害虫】

今後気温が高くなれば、害虫の発生が多くなるので注意。

・ネギハモグリバエ

・ネギアザミウマ

※害虫の食害痕が軟腐病の原因にもなり得ます!!

※薬効が切れる前に粒剤による追加防除を行いましょう!!

→ 夏ねぎ1回目防除

6月下旬 → 夏ねぎ2回目防除、

秋冬ねぎ1回目防除

6月中旬 (梅雨入り前) のべと病予防を忘れずに!!

※近年は「さび病」も多発しますので要注意。

白神山うど

○山うど栽培について

【植え付け後の管理】

・除草を兼ねて定期的に畝間部分を中耕し、雑草を抑えましょう。

・6月中旬から下旬 (草丈で50~60cmの頃) に除草を兼ねて畝間部分を中耕し、1葉目が隠

れる程度に培土します。

・7月上旬~中旬に除草を兼ねて2~3葉目が隠れる程度に培土します。

極端に多く培土するとほり芽が多くなるので注意して下さい。

・中耕・培土を行う際、生育の悪い場合は追肥用化成 (S646など) でN成分3~5kg/10a

を追肥して下さい。

白神みょうが

○みょうが栽培について

根茎腐敗病対策として、ユニフォーム粒剤をまだ散布していない方は収穫30日前まで散布し

て下さい。

10a当たりの散布量は18kg、使用回数は2回までとなっていますので、使用量、使用時期、

使用回数に注意して、雨降り前に散布して下さい。

白神きゃべつ

○きゃべつ栽培について

コナガ・アオムシ等の防除については、より高い防除効果を得るためには、若齢幼虫期からの防除を実施しましょう。

また、菌核病については前年に発病が見られた圃場では、結球始期からの予防に努めましょう。

【コナガ・アオムシ】

ハクサップ水和剤 1000倍~2000倍 (収-前日)

コテツフロアブル 2000倍 (収-前日)

フェニックス顆粒水和剤 2000倍~4000倍 (収-前日)

【菌核病】

トップジンM水和剤 1000倍~1500倍 (収-3日前)

アフエットフロアブル 2000倍 (収-前日)

オンリーワンフロアブル 1000倍~2000倍 (収-前日)

生育に応じた適期中干しと、いもち病防除の徹底を!

1. 分けつの発生を促進する水管理と適期中干し

目標収量の確保のため、引き続き分けつ発生を促す水管理を行い、早期の茎数確保に努めるようにしてください。

【分けつの発生を促進する水管理】

○分けつの発生は昼夜の水温較差が大きい場合に促進されます。そのため、浅水管理を行い水温と地温を高めて日較差を大きくします。ただし、田面が露出しないように注意してください。

○かん水は水温の低い早朝に短時間で行い、日中は止水管理を行ってください。

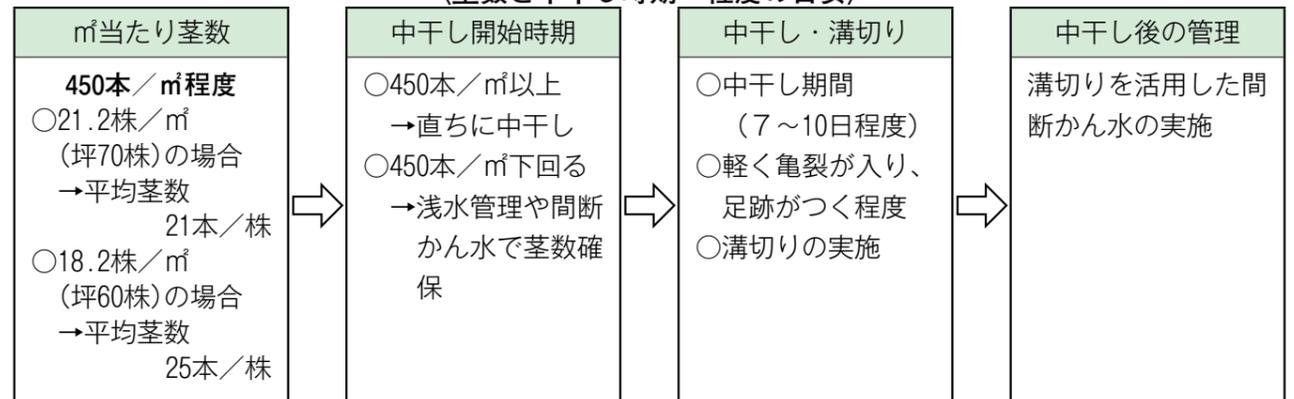
【適期中干し】

○中干しは、無効分けつの発生を抑えるとともに、根の活力を高めて1穂粒数と千粒重を増加させる効果があります。下図を参考に、生育状況を見ながら中干しを開始してください。

○目標穂数となる450本/㎡ (下図参照) が確保できたら、中干しを開始するようにしてください。

○溝切りは、落水だけではなくその後の入水もスムーズになるので、できるだけ実施しましょう。

〈茎数と中干し時期・程度の目安〉



2. いもち病防除 (オリゼメート粒剤の散布)

初期の発病を抑えることは、その後の葉いもちの発生や穂いもちの伝染源を減少させます。葉いもち防除として箱施用剤や側条施用剤を使用していない場合は、6月15日頃 (6月12~18日) にオリゼメート粒剤を10a当たり2kg散布します。湛水状態で散布し、散布後4~5日間は入水せず、7日間は落水や掛け流しをしないでください。

補植用余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への強力な伝染源となります。ほ場に放置されている苗が散見されますので、直ちに泥に埋めて処分して下さい。

3. 斑点米カメムシ類対策

○本県の主要加害種であるアカスジカスミカメは、イネ科雑草、ホタルイ類等の穂に産卵するため、これらの雑草が畦畔や水田内で繁茂すると多発し、斑点米による被害が大きくなります。

○5月は気温の高い日が続く、雑草の発生が早かったとみられます。初中期一発型除草剤で雑草を抑えきれなかったほ場は、発生草種やほ場の湛水状況に応じた中・後期剤の散布を行ってください。

○斑点米カメムシ類の生息地を減らすために、農道や畦畔、休耕田、雑草地などの草刈りを出穂10~15日前までに数回実施します。